

## 第2回鎌ヶ谷市地域福祉計画策定委員会 会議録

<b>【開催日時】</b> 平成23年3月28日（月） 13時30分から 15時30分まで	<b>【出席者】</b> 鈴木秀承委員    下谷喜作委員 山田ルミ子委員    中野 洪委員 松村幸江委員    高橋 寛委員 小林数夫委員    山本幸子委員	<b>【事務局出席者】</b> 課長 田中 延佳 渡邊 忠明 會澤 修
<b>【場 所】</b> 総合福祉保健センター 4階 研修室	<b>【欠席者】</b> 堀江直茂委員    川村浩幸委員 鮫島 亘委員    鈴木 操委員	<b>【手話通訳】</b> 須賀 行森  書記：會澤
<b>〈議 題〉</b> (1) 議事録署名人の選出について (2) 鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）について (3) その他		

### 〈会議内容〉

発言者	発言・質問・回答の要旨（要点筆記）
鈴木会長	これから地域福祉計画策定委員会第2回会議を始めたい。 3月11日に大地震が発生したが、今までにない地震であった。 第二次災害も発生し、不安な日々を過ごしていると思う。 この市では、直接的な被害はなかったが、どんな災害が起きるかわからない。 特に地域福祉計画では、災害時要援護者の支援について頭に入れておきながら、議論していただきたいと思う。
事務局	本日の傍聴人はいないので、このまま会議を進めていただきたい。
鈴木会長	<b>議題(1) 議事録署名人の選出について</b> 議事録署名人については、名簿順に従って、小林委員と下谷委員にお願いしたい。
鈴木会長	<b>議題(2) 鎌ヶ谷市地域福祉計画(素案)について</b> 次の議題である「鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）」について、事務局の説明を求める。
事務局	「鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）」について説明を行う。
鈴木会長	今の説明に対して、何か意見はあるか。
中野委員	目標として考えれば、良く出来ている。目標に対して具体的な施策があった方がいいと思う。 前回の計画で乗り越えられなかった点として、一つ目は“新たな地域の支えあづくり”が欠けていたこと。近所同士での関係を作りあげていくことが大事であり、このあたりの展開が不十分ではないか。 二つ目は、計画を進めていくためには、費用のバックアップがないと地域福祉の推進ができない。 自主的にボランティアをやりましようと言われても、お金がないと出来ないと思う。経費は計画に載っていないが、どう対応するのか。

事務局	<p>前の計画にははっきり載せてなかった、地区社協や民生委員、自治会などの団体との関係を明確化した。</p> <p>経費が載っていないという点では、この計画は総論計画であり、実施計画ではないので、明記していない。この計画をもとにして、各担当課が予算化していくことが必要となる。</p>
中野委員 事務局	<p>予算化されているかどうかの裏づけは、毎年の予算書を見る必要があるのか。</p> <p>計画の中で施策が明記されているので、それぞれの担当課が担保していくべきだと考えている。今回の計画について、より周知していきたい。</p>
鈴木会長	<p>今回の計画は、社会福祉協議会を頼っていくような感じを受ける。全体的には、社協が取り組んでいたものである。</p> <p>地域支えあいセンターも、市が社協に委託して社協が運営していくが、コーディネーターの採用も必要だし、お金もかかる。</p> <p>今のパート採用の状態では、地域福祉の相談を受けても回答できない。コーディネーターの採用や教育なども必要である。</p>
事務局	<p>社協の地域福祉活動計画に基づいて推進することは社協の本務だと考える。また、市と協議しながら人材を雇用するなど考えていかなければならない。地域に隠れた優秀な人材がいると思うので、発掘し、地区社協で雇用するなどしないといけない。</p> <p>費用については、市から出しますとは言えない状態である。</p>
高橋委員	<p>地区社協の立場からすると、市社協からのアドバイスがないと難しいと思う。人材の育成や財政面については、市にお願いしたい。</p>
事務局	<p>財政面だけではなく、人材面でのサポートも必要と考えている。民間団体からの協力もできると思うし、多方面からのサポートを含めて考えていきたい。</p> <p>6つのエリアにある地区社協を中心にして、そこから人と人とのつながりを作る。そこから地域福祉が始まると思うので、地区社協の充実を図っていただきたい。</p>
山本委員 事務局	<p>地区社協の職員は、すべて地域福祉コーディネーターなのですか。</p> <p>本来は地域福祉コーディネーターであるべきだが、現在は非常勤職員となっているのが現状である。</p>
高橋委員	<p>地区社協や市社協の職員も研修などを受けてコーディネーターができるような資質の向上が必要ではないか。また、市社協や行政が一緒になって地域福祉を進めて行く、また、そのような話し合いの場も必要ではないか。</p>
鈴木会長 中野委員	<p>地域福祉計画を実現していくのは社協。行政は後ろから支援していく形となる。</p> <p>千葉県社協では、小学生や中学生に対する地域福祉教育の推進について検討をしている。子どもたちやボランティア、若い人たちに対する取り組みも必要だと思う。市の計画にも、もう少し福祉教育の推進について延べていく必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>計画の40ページ、41ページに学生ボランティア活動の推進や子どもに対するボランティア活動の啓発について取り入れている。</p>
松村委員	<p>災害時要援護者避難支援計画を見たが、地域支援者を決めてくださいと書いてある。障がい児や障がい者を抱えている人は支援者を決めることは難しい。近所の民生委員を紹介していただけたら、そのあたりのフォローをしていただきたいと思います。</p>

	<p>もし災害が起きた場合、市に電話しても迎えに来てもらえないかもしれない。近所での助け合いも必要なので、もっと簡単に民生委員さんと交流ができれば、もう少し登録ができるかもしれない。</p>
山本委員	<p>行政が持っている障がい者の名簿を民生委員に渡してもらえないので、なかなか障がい者に対する支援ができない状態である。公表しないことを前提に名簿を頂ければ、各地区の民生委員に支援していただけるのではと考える。</p>
山田委員	<p>名簿も大切だと思うが、それよりも近所づきあいが大切だと思う。心を開いて付き合えば、災害時でも助け合えると思う。もう少し近所に目を向けてもらって、近所で助けてくださいと言えば、ちょっとした支えあいや見守りができると思う。</p>
中野委員	<p>災害時要援護者避難支援計画が市民にうまく周知できていないと思う。地域福祉計画も同じように市民に周知できなければ結局同じものとなる。</p>
鈴木会長	<p>地震をきっかけに、いろいろと教訓があったと思います。では、この地域福祉計画について、このまま進めてよいか多数決で決めたいと思う。</p>
事務局	<p>→全員一致でこのまま進めることでよい。 今後の進め方としては、各委員から意見をもらったものを修正して、庁内会議に諮って修正したものをまた各委員に意見をもらいたいと考えています。</p>
	<p><b>議題(3) その他</b></p>
山本委員	<p>31ページの災害時要援護避難支援登録申請書兼登録台帳（個別計画）の修正は考えていますか。</p>
事務局	<p>地域支援者のお願いについては、自分自身が近所付き合いは必要だなと気づいてもらえればいいと思うので、このままでもいいと考えている。</p>
中野委員	<p>3月11日の地震の時、ちょうど民生委員の会議中だった。各地区で担当している高齢者を訪問してガスや水道は大丈夫かなど、安否の確認ができた。しかし、障がい者については名簿がないので、安否確認ができない。</p>
事務局	<p>災害時要援護者については、地震が起きた時に行政側で安否確認に努めた。要援護者は20人くらい登録していたが、とても大変だった。行政としても限界があるので、やはり地域での支えあいや確認をお願いすることがとても大事だとわかった。</p>
高橋委員	<p>自治会の立場から言わせていただきたい。災害が起きた時に、近所同士だとすぐ確認ができるが、自治会としてどういう活動をしなければならないか。避難の仕方とか誘導の仕方とか、連携のとり方など、どんな方法でやるか具体的な案やマニュアルがあれば、やりやすい。</p>
事務局	<p>行政と自主防災組織の話し合いもないので、なかなか進まない状態である。市の指示を待ってられないので、自治会としても何らかの対策を取りたいと考えている。西部地区がモデル地区になりたいと思っている。</p>
事務局	<p>災害時のときのマニュアルがないため、なかなか進まないのが現状である。 次回会議を平成23年5月11日（水）午後1時30分からとする。</p>
鈴木会長	<p>意見がなければ、以上で本日の会議を終了する。</p>
	<p><b>4. 閉会</b></p>

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成23年4月30日

署名人 小林 数夫

署名人 下谷 喜作